



長野県立 こども病院だより

No.25
平成25年1月10日発行



長野県立こども病院理念

わたし達は、未来を担う子ども達のために、質が高く、安全な医療を行います。

contents

新年のご挨拶	1
第4回病院祭開催されました	2
第9回長野県立病院等合同研究会が開催されました	3
チャイルド・ライフ・スペシャリストの紹介	4
病棟紹介(第2病棟)	5
ボランティアサークル(ソフト整体 気功)	5

新年のご挨拶

長野県立こども病院 病院長 原田順和



皆様、あけましておめでとうございます。平成25年を迎えるにあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年を振り返りますと、東日本大震災の後遺症ともいべき混沌とした政治、経済の状況が

続きました。そのような社会情勢の中で、長野県立こども病院では、療養環境の充実、持続可能な病院経営を目指し職員一同、努力をして参りました。

医療相談員やチャイルドライフスペシャリストを置くことで、入院中の患者であるお子さんたちや、そのご両親など、少しでも過ごしやすい環境をつくることのできるよう配慮いたしました。また、外来のエントランスフロアーにはフロアアテンダント、駐車場には駐車場整備員を配置し、外来患者の皆様方の利便性を高めました。まだ台数は不足しがちですが、駐車場を拡張し、駐車場からエントランスホールへの通路には車椅子やバギーの使いやすさを考え、それまでのインターロッキングから、アスファルトのカラー舗装へと変更しました。平成13年に開設されたしろくま図書館は、株式会社GAC様からのご寄付を利用させていただき、木の香りのする癒しの空間として、生まれ変わりました。

診療研究面では、3D造形センター、生命科学センター、予防接種センターなどの開設を行いました。また、小児集中治療室(PICU)の後方ベッドとしてのハイケアユニット(HCU)が第4病棟に開設され、感染症の流行期などで、PICUが満床になった時に手術を中止せざるを得ない状況が改善されました。4月

からは看護師が増員可能となったことから、10月から新生児集中治療室(NICU)では21床から24床への増床が可能となり、HCU4床の設置と合わせて、これまでの163床から、病院全体で170床に増床することになりました。

急性期をなんとか乗り越えたものの、慢性期にも継続して医療的ケアが必要な患者さんが増加していることは、以前から指摘されてきたことですが、具体的方策はまだ確立していないのが現状です。また、長野県立こども病院では、慢性期になった患者さんたちへの小児在宅医療の推進を目指し、患者支援・地域連携室を中心に、長野こども療育推進サークル“ゆうテラス”とも連携し、新しい分野を切り開くべく、一歩ずつ歩みを進めています。

以上のような活動を通して、長野県立こども病院の理念にある通り、“未来を担う子ども達のために、安全で質の高い医療を提供する”という目標に、少しでも近づくことができたと考えています。

さて、本年は、平成5年5月28日に設立された長野県立こども病院が20周年の節目を迎える年でもあります。実行委員会を中心に、平成25年5月25日(土曜日)に記念式典を行うべく、計画しております。皆様方にも参加していただくことのできるよう、計画しておりますので、ぜひご参加ください。今までの20年と合わせて、これからの10年、20年後の長野県の小児医療について、思いを巡らせてみたいと思います。

最後になりますが、皆様方のこの一年のご健康と、ご活躍をお祈りして、新年のご挨拶とさせていただきます。
平成25年1月1日

第4回病院祭が10月14日に開催されました。おかげさまで非常にたくさんの皆様にお越しいただき、無事に病院祭を終わらせることができました。参加者はおおよそ3,000名に達しました。今年は天気に非常に恵まれ、朝早くより気球が無事に次々と飛び立ち、子ども達も非常に喜んでおりました。

今回は「かなでよう みんなのメロディ」のテーマに表れていますように、辻井さんのピアノ演奏を筆頭に、オープニングを派手に飾っていただいた“松川響岳太鼓”、TDLにも出演した中高生(ジャズ)バンド“ザ・ビッグバンド・オブ・ミュージックトイズ”、みんなで踊って楽しんだ沖縄の三線演奏“たこらいす58”、長野県のご当地アイドル、Seven7Peaceの歌、エンディングを飾っていただいた吹奏楽団“夢”、等音楽が盛りだくさんの企画でした。

今回のメインイベントである、辻井さんの演奏会はあふれんばかりの人で賑わっておりました。入院患者さんや親御さん達も日常ではなかなか聞くことの出来ない辻井さんの演奏に聴き入っておりました。また、特別にご招待した松本盲学校の生徒さんや保護者の方々も演奏会に参加できたことを非常に喜んでおられました。無事に演奏会が終わり、辻井さんにも子ども達の喜ぶ姿が見えた、と喜んでいただき一同胸をなで下ろしました。

講演会はこども病院を舞台とした本“電池が切れるまで”の宮越由貴奈さんの母親の陽子さん、著者の宮本雅史さんと当院副院長の中村友彦医師による「大



コンサート

切な命」と池川先生の「胎内記憶」でした。「大切な命」では講演を通して、皆様からこども病院に対する強い激励叱咤をいただきました。「胎内記憶」の講演では席が足りなくなり、急遽医局より席の移動が必要でした。命について皆様が少しでも考えるきっかけになったのではないかと感じました。

その他にも、前回好評でありました職業体験“キッズアニア”も朝から行列が出来ており、大好評でした。その他、信州DCイメージキャラクター“アルクマ”、“銀だこカー”、“アロマコーナー”、“予防接種相談”、“信州プロレス”、“支援を必要とする子どもたちのための本展”関係者の皆様、“海洋生物ラジコン”の林正道様、模擬店の日だまりの会の皆様、工作講座の“しろくま ほっとライブラリー”の皆様、バルーンアートの寺島様、ラクガキ屋 Mallu イラスト展の丸山様、臓器

移植ネットワーク長野 Co の皆様、手作り小物の販売と体験教室を開いていただいた全国心臓病の子どもたちを守る会の関係者の皆様、おにぎり・豚汁を無料配布していただいたNPO 法人あずみのファミリーハウスの皆様、様々な形で協力いただいた企業の皆様、そして、忙しい業務の中、企画を支えていただいた委員会のメンバーや協力者の皆様、ありがとうございました。

来年以降も、更なる楽しい企画のつまった病院祭を企画し、皆様のご来場をお待ちしたいと思います。



第9回長野県立病院等合同研究会が開催されました

県立病院等合同研究会実行委員長（副院長兼整形外科部長）
藤岡 文夫

第9回長野県立病院等合同研究会をこども病院担当で12月1日土曜日に開催いたしました。本研究会は県立5病院および長野県総合リハビリテーションセンター、県立病院機構本部の職員の資質向上のために毎年開かれています。今年は189名の職員が松本合同庁舎に集い、午前の一般演題、昼の交流会と松本地域ものづくり企業ポスターセッション、午後の特別講演に参加しました。

一般演題は各施設から2演題ずつの計14演題で、診療・看護・医療技術・人材チーム育成・医事業務の各分野における他病院の取り組みを知ることができました。奨励賞が優秀な3演題に授与され、こども病院からは外来部門の林部麻美さんが発表した「外来における成人移行期支援の取り組み」が表彰されました。こども病院での重要課題のひとつであり、成人病院との適切かつ具体的な連携を構築する必要があります。

昼の「松本地域ものづくり企業ポスターセッション」は、今年度こども病院が取り組んでいる「県内企業との医療機器、医療技術の共同開発」を推進するための企画で、長野県松本地方事務所商工観光課のバックアップを受けて行いました。14の地元企業の医、食、住に関する最新の技術がポスターと実際の製品で



聖路加国際病院 院長 福井次矢先生

プレゼンテーションされました。この地域の技術力の高さを知ることができました。午後の特別講演は聖路加国際病院院長 福井次矢先生から「Quality Indicator – 医療の質の評価と改善 –」を拝聴しまし

た。2005年以降聖路加病院で取り組まれたQIの制定とそれを利用した業務改善の実際を聞き、多くの職員が大きな衝撃を受けました。院長の強い意思によりQIを公開し、組織的にはQI委員会を頂点にして医療安全、経営企画、感染対策等の病院運営、経営に必須な部門を統括する手法に驚くとともに、PDCAサイクルの重要性を再認識するものでした。

来年度はこころの医療センター駒ヶ根の担当で第10回が行われます。全職種の知識技術の向上、交流がなされる有意義な会を楽しみにしたいと思います。



特別講演

チャイルド・ライフ・スペシャリストの紹介

患者支援・地域連携室 チャイルド・ライフ・スペシャリスト
塩崎 暁子



2012年9月にチャイルド・ライフ・スペシャリスト (Child Life Specialist : 以下CLS) として着任いたしました。CLSは闘病中の子どもと家族の視点に立った心理社会的支援をする、子どもの心と発達の専門家です。病院は子ども達にとって未知の体験がいっぱい。どんな場所？誰がいるの？何をやるの…？子どもの年齢や個性、状況によって病院のイメージは異なります。成長につれ、その子が感じる病気や将来に対する不安やストレスも変化します。医療環境で困難な場面に直面した時、病気や治療に伴う痛みやストレスを心に閉じ込めてしまわないよう、子ども自身が乗り越える力を育むサポートをするのがCLSの役割です。子どもにとって分かりやすい言葉や方法で処置の手順や必要性を説明し、心の準備(プリパレーション)ができるよう学びの機会を提供。病院で感じたことや体験したことを遊びの中で表現してもらう治癒的な遊びを提案。また、直接検査や処置に関わることはありません。

んが、その場面へ立ち会いこどもの不安に寄り添ってその子らしく処置に臨めるよう行う心理支援も行います。今、子ども病院にある多様なニーズに合わせて医療多職種の皆さんとどのような連携・協働ができるか、病棟や外来の様々な場面で患者さんご家族へ関わらせていただいています。

「痛いから採血は嫌。」と、血という言葉を聞くだけで緊張してしまっていた子。プリパレーションを通して採血手順や血液検査の大切さを学び、「(採血の)やり方練習してから。」「看護師さんと深呼吸する。」「今日は一人で座って採血する。」と回を重ねるごとに前向きに苦手な採血に臨めるようになりました。病棟でお母さんから離れたくなかった子。「保育士さんと遊びながらプレイルームでお留守番できたよ。」と教えてくれました。心電図検査が怖くて大泣きしていた子。自分でゆっくり数を数えながら臨床検査技師さんに電極を貼ってもらうことで、ペースを取り戻し落ち着いて検査が受けられました。彼らはこの数カ月間で私が出会った子ども達です。これらのエピソード以外にも、子ども達の持つ困難を乗り越える力に驚かされることばかりでした。

原田院長率いるチーム子ども病院の一員として、子どもたちと家族の笑顔で病院が彩られるよう、心理社会支援の充実を目指したいと思います。「遊びと学び、学びは癒しに」をキーワードに、子どもご家族が主体となれる医療環境を提案し、子ども達の成長に寄り添っていける存在でありたいと思います。



2012年 病院祭にて (写真右側が筆者)



2010年 米国留学時のプレゼンテーション

病棟紹介(第2病棟)

第2病棟 看護師長 望月 仁美

第2病棟は、在宅支援病床として平成21年2月に開棟しました。ここでは、第1病棟・第4病棟・第5病棟・新生児病棟で急性期治療が終わり在宅に向けての指導が始まった患者さんが転棟されてきます。定床数11床、看護師13名、ヘルパー1名、保育士1名の病棟です。「在宅に向けて」が目的ですので診療科は様々です。一番多い診療科は神経科ですが、新生児科、循環器科、血液腫瘍科の患者さんもいらっしゃいます。多くの患者さんは気管切開をしていて人工呼吸器使用、胃瘻造設されている方が多いです。こうした医療的ケアを多くしながらお家に帰るための準備の総仕上げが第2病棟の役割です。2病棟に転棟する前から、それぞれの病棟では在宅に向けた準備としてお家の方へいろいろな指導をしています。



今年のハロウィンのテーマは『ゲゲゲの鬼太郎』でした。入院中のお子さんご家族とスタッフで病院中をまわり、お菓子をたくさんいただきました。来年もよろしくお祈いします。ちなみにスタッフが着ている衣装は保育士の宮澤さんが作ってくれました。ビニール袋で作っているの、汗びっしょりになりました。

てからは、そうしたケアの積み重ねをしながら、お家へ帰ってからの支援体制を作っていきます。この過程の中では、看護スタッフのみならず、リハビリ、臨床工学士、患者支援地域連携室スタッフの方たちと連携して行っています。

ご家族の中には医療的ケアが多くてお家へお子さんを連れて帰ることを躊躇してしまう方もいらっしゃいます。病棟スタッフは、患者家族の一番身近にいる存在として、ご家族を時に見守り、時に背中を押し、できる限り在宅生活ができるようにそれぞれの強みを発揮して頑張っています。



病院祭の日に揃いのTシャツを着て働いていた時の記念写真

ボランティアサークル(ソフト整体 気功)

「ソフト整体(気功)」はこども病院のすぐ近くにお住まいの高木先生が5年ほど前から毎週一回来て下さっています。ご自宅でも治療院を開院されていますが、「整体」というより「指圧」や「マッサージ」という感じで、とても身体が温かくなり、ほぐれてきます。

付添いのご家族には簡易ベットで休んでいただいているので、どうしても身体に無理がかかったり、ストレスがたまったりすることもあります。そのような時に高木先生にマッサージをしていただくと「身体が軽くなってすっきりした」とか、「腰や肩の痛かったのがとても楽になった」などと言って、皆さまとても喜んでお部屋へ戻って行かれます。

2週間先まで予約が入ることもあり、このことから人気の高さが伺われます。とても物静かで真面目な



整体の様子

先生でいらっしゃり、いつも目立たぬようにそっとおいでになり、そっとお帰りになれるお姿には本当に頭が下がる思いです。

長野県立こども病院 外来医師担当表

平成 25 年 1 月 1 日現在

	外来名	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
南棟外来	整形外科	藤岡 文夫 (AM)	高橋 淳 (PM) ※1	藤岡 文夫 加藤 博之	松原 光宏 (AM)	松原 光宏
	小児外科		岩出 珠幾 (AM) ※2 好沢 克 (AM) 高見澤 滋 (PM)	高見澤 滋 (PM)	町田 水穂 (AM) 好沢 克 (PM)	町田 水穂 (AM) 岩出 珠幾 (PM)
	眼 科	視能訓練 非常勤※3	視能訓練	視能訓練	視能訓練 (AM) 北原 博 (1/10)	視能訓練 北澤 憲孝
	総合小児科	南 希成※4 笠井 正志※5	樋口 司	南 希成 (AM) 樋口 司 (PM)	笠井 正志※4	樋口 司 (AM)
	血液腫瘍免疫科 免疫・アレルギー外来	南雲 治夫			南雲 治夫	
	血液腫瘍免疫科 血液・腫瘍外来	塩原 正明	塩原 正明 (AM)	塩原 正明 南雲 治夫		塩原 正明 (AM)
	血液腫瘍免疫科 内分泌・代謝外来		竹内 浩一 (AM)		竹内 浩一 (AM)	竹内 浩一 (AM)
	循環器科 (内科・外科)	小坂 由道 (AM) 坂本 貴彦 (AM) (外科)	安河内 聰 瀧間 浄宏 (内科)	坂本 貴彦 (AM) 原田 順和 (AM) 小坂 由道 (AM) 手術説明 (PM) (外科)	安河内 聰 田澤 星一 (内科)	瀧間 浄宏 田澤 星一 (内科)
リハビリ テーション科					笛木 昇 (AM)	
北棟外来	脳神経外科	重田 裕明 宮入 洋祐	重田 裕明 宮入 洋祐 (PM)		重田 裕明 宮入 洋祐	
	泌尿器科 皮膚・排泄ケア外来		下記※6			
	神経小児科	平林 伸一※7 福山 哲広	平林 伸一※7 福山 哲広 (PM) 奥野 慈雨	平林 伸一 奥野 慈雨 (AM)	奥野 慈雨 (AM)	平林 伸一 福山 哲広
	小児外科					高見澤 滋※8
	新生児科	中村 友彦 三代澤幸秀	小久保雅代	廣間 武彦	廣間 武彦	小久保雅代
	形成外科	野口 昌彦 柴 将人 (AM) 杠 俊介 (PM)	安永 能周※9	野口 昌彦 杠 俊介	野口 昌彦 (PM)	野口 昌彦 (PM) 藤田 研也 (PM) 杠 俊介 (PM)
	血液腫瘍免疫科 内分泌・代謝外来		竹内 浩一 (PM)		竹内 浩一 (PM)	
	麻酔科	大畑 淳 (AM)				
	皮膚科				芦田 敦子 (AM)	
	精神科 こころの診療科				原田 謙 (PM)※10	
	遺伝科	古庄 知己※11	西 恵理子	西 恵理子	西 恵理子 鳴海 洋子 (PM)	西 恵理子
	耳鼻咽喉科		下記※12		出浦美智枝	
	循環器小児科 胎児心臓外来		松井 彦郎 (PM) 田澤 星一 (PM)		瀧間 浄宏 (PM)	安河内 聰 (AM)
	産 科	吉田 志朗 (AM) 高木紀美代 小松 篤史 (PM)	高木紀美代 小松 篤史	吉田 志朗 高木紀美代	吉田 志朗 小松 篤史	高木紀美代 小松 篤史
リハビリ テーション科	笛木 昇 河野 千夏※13	笛木 昇 河野 千夏 (AM)	笛木 昇	三澤 由佳 (AM) 原田由紀子	河野 千夏	

- ※1 整形外科の高橋医師は第2週のみ診察となります。
- ※2 小児外科の岩出医師は、第1、3、5週です。
- ※3 1/7、1/21の診察日となります。
- ※4 月曜日の南医師と木曜日の笠井医師は、午後4時～5時の間だけ予防接種相談外来になります。
- ※5 月曜日の笠井医師は、ワクチン接種外来になります。
- ※6 泌尿器科 午前 週によって、医師が異なります。
午後 皮膚・排泄ケア外来は、第1、5週で西澤医師の診察日となります。
- ※7 月・火曜日の午後 平林医師は発達障害専門外来です。
- ※8 第2・4週は午前・午後、第1・3・5週は午後のみ診察となります。
- ※9 火曜日の安永医師は第4週の午前のみ診察となります。
- ※10 精神科(こころの診療科) 外来の初診は、受付しておりません。
- ※11 遺伝科の古庄医師は午前11時からの診察となります。
- ※12 耳鼻咽喉科 午後 週によって、医師が異なります。
- ※13 リハビリテーション科の河野医師は午前11時までの診察となります。

★診察時間：午前9時～午後4時
★休診日：土・日曜日、祝祭日、年末年始
★受診には、原則として予約が必要です。

予約専用電話

0263-73-5300